

株式会社 三国自動車

2016年度 環境活動レポート

(2016年4月～2017年3月)



発行

2017年7月28日

株式会社 三国自動車

環境方針

<環境理念>

益々深刻化する地球温暖化は、化石燃料の大量使用で発生するCO₂排出と森林の伐採によるCO₂吸収浄化作用の激減が最大の原因と思われます。私達自動車整備販売業に携わる事業者としてできるCO₂の削減（燃料、電気、水の無駄遣い改善）、お客様には中古部品の活用、エコカーの販売、エコ整備、エコドライブの説明有効利用を勧め積極的に地球に優しい環境保全活動に取り組みます。また、物品等の購入の際はグリーン購入に努めます。

<環境保全への行動指針>

1. 会社全体をあげ、力を合わせて環境問題に取り組みます。
2. 環境保全対策を推進する体制を整備します。
3. 特に、水・電気・ガソリン・軽油の使用量、廃棄物の削減に取り組みます。
4. 各種法規を遵守するほか、環境保全にかかわるその他のルールを守ります。
5. 社員全員に環境問題に取り組む意識を高める教育をします。
6. 環境に配慮して商品の販売やエコ整備、エコドライブ等の説明、また、グリーン購入に努めます。
7. 化学物質の使用量の削減に努めます。

制定日：2009年10月26日

改定日：2010年11月1日

改定日：2015年10月1日

株式会社 三国自動車

代表取締役社長

植林 晃平

□登録事業所の概要

- (1) 事業所名及び代表者名
株式会社 三国自動車
代表取締役社長 植林晃平
- (2) 所在地
大阪府和泉市大野町1011-3
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 専務取締役 植林晃平 TEL：0725-99-0825
- (4) 事業内容（認証・登録の範囲）
自動車車検・整備業 钣金・塗装業 新車・中古車販売 関連商品販売 保険業務
- (5) 事業の規模
資本金 1,000万円 (2015年10月～2016年9月)

	本社
従業員	15名
敷地面積	5940㎡

- (6) 事業年度 4月～3月

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2013年 (基準年度)	2014年	2015年	2016年
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO ₂ /年	61,626	51,455	55,879	58,951
廃棄物排出量	トン/年	7.3	7.4	7.7	8.4
一般廃棄物量排出量	トン/年	2.6	2.5	2.9	3.0
産業廃棄物排出量	トン/年	4.7	4.9	4.8	5.4
水使用量	m ³ /年	403	365	397	371

□環境目標及びその実績

項目	年度	2013年	2016年		2017年	2018年
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	33,726	32,714 97.0%	30,455 93%	30,016 89.0%	29,678 88.0%
灯油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	4,149	4,025 97.0%	4,755 118.1%	3,983 96.0%	3,942 95.0%
自動車燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	23,540	22,834 97.0%	23,587 103%	22,598 96.0%	22,363 95.0%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	61,415	59,573	58,797	56,597	55,983
一般廃棄物の削減	(kg/年)	2,646	2,593 98.0%	3,045 117%	2,567 97.0%	2,540 96.0%
産業廃棄物の削減	(kg/年)	4,695	4,601 98.0%	5,395 117%	4,554 97.0%	4,507 96.0%
水使用量の削減	(m ³ /年)	403	395 97%	371 94%	367 91.0%	363 90.0%
化学物質使用量の削減	(kg/年)	16.1	15.6 97.0%	159.9 1025%	115.8 99.0%	114.6 98.0%
グリーン購入の推進	(個数)	117	140 120%	274 196%	281 240%	287 245%
エコ整備の推進	(台/年)	749	809 108%	846 105%	861 115%	876 117%
エコカー販売の推進	(台数)	66	79 120%	73 92%	83 125%	86 130%

* 二酸化炭素排出量には液化石油ガス(LPG)は含まれていません。

* 電力の二酸化炭素排出係数は0.522でkg-CO₂/kWh計算しました。

* 化学物質について2017年度と2018年度は2015年度を基準年とするので目標値が大きくなっています。

口環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力の二酸化炭素削減		
数値目標	○	基準年に対して約10%減らし、目標を達成できた。次年度も全社員で努力し、活動を進めていく。
・こまめに消灯する	◎	
・機械類の手入れをする	○	
・スチーム機作業油の給油を徹底	○	
・エアコンの温度管理をする	△	
・事務所は太陽光を活用する	○	
・塗装場の作業効率を良くする	○	
灯油の二酸化炭素削減		
数値目標	×	今年度は削減できなかった。塗装などの仕事量が増え、増加は仕方なくも考えられるが、作業方法を工夫するなど、少しでも削減できるように努力する。
・スチーム機を正しく使用する	○	
・機械本体の手入れを行う	○	
・ストーブは必要な時だけつける	○	
・塗装時の作業工程は正しいか確認する	○	
自動車燃料の二酸化炭素削減		
数値目標	×	目標を少し上回ってしまった。しかし、ガソリンの使用量は大幅に減り、軽油は減っているため、達成手段の「積載車を活用する」は実行できている。今後も達成手段を守り活動していく。
・引取納車を効率よく段取りする	○	
・急加速、急停車の防止	○	
・エコドライブする	○	
・定期的に車両点検する	○	
・積載車を活用する	○	
一般廃棄物の削減		
数値目標	×	やはり削減できなかった。来年度は意識改善し、削減できるように進めていく。
・裏紙を利用する	◎	
・ミスコピーの防止	○	
・70ℓゴミ袋使用量の管理	○	
・可能なものは両面印刷する	◎	
産業廃棄物の削減		
数値目標	×	削減はやはりできなかったが、オイルの漏洩などなく終えることができた。来年も作業の安全を考え進めていく。
・オイルの漏えいがないように注意する	◎	
・廃油と汚泥について削減活動に取り組む	○	
水使用量の削減		
数値目標	○	水道水においては、使用量の削減ができた。全社員が、努力している結果なので、今後ともこのように続けていく。地下水においては、わずかだが、削減できた。入庫が増え洗車の台数も増えるが、いつも節水することを心がけて、行動していくことが、これからも必要である。
・節水弁取り付け	◎	
・洗車が必要か確認する	○	
・蛇口から出す水量を弱くする	○	
・蛇口の締め忘れがないか確認する	◎	
・蛇口の締め忘れがないか確認する	◎	
化学物質使用量の削減		
数値目標	×	2015年度に、化学物質使用量を、調べ直した結果、使用量が増えていた。今年度も同じように調べた結果、前年度より増えてしまったので、次年度からは化学物質の基準年度を、2015年度として削減に努め、活動していく。
・水性塗料など環境に配慮した塗料を使用する	○	
・無駄がないように工夫して塗料を使用する	◎	
グリーン購入の推進		
数値目標	○	リサイクルパーツの利用、事務品のグリーン購入が増えた。この調子で次年度も進めていく。
・環境に配慮した事務用品を購入する	◎	
・リサイクル部品を使用する	◎	
エコ整備の推進		
数値目標	○	点検入庫の案内の成果もでて、目標達成できた。これからも安全性、燃費向上など点検することのメリットをお客様にお伝えし、エコ整備台数が増えるように努める。
・6か月点検、12か月点検、車検整備の推進（タイヤ空気圧調整、オイル交換促進などを含む）	◎	
エコカー販売の推進		
数値目標	○	目標達成することができた。来年度は、更に目標が上がるので、努力していかなければならない。
・エコカー販売台数の向上	○	

□環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守評価
水質汚濁防止法	貯油施設、油水分離槽の設置届及び点検清掃を行う	○
浄化槽法	浄化槽を設置。点検、清掃等を行う	○
騒音規制法	コンプレッサーの設置届出	○
自動車リサイクル法	引取業者登録 処理、保管基準の遵守 フロン回収業者登録 処理、保管基準の遵守	○
廃棄物処理法	処理、分別保管基準の遵守 委託契約管理票の交付、回収	○
P R T R法	届出事業ではないが、化学物質の管理を実施	○
消防法	危険物の保管・届出及び保管基準の遵守	○
自動車NOx・PM法	指定地域 排出基準の遵守車両の使用	○
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者の選任 局所排気装置の設置 健康診断の実施	○
フロン排出抑制法	業務用空調機・コンプレッサーの点検	○

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

目標を達成できていない項目もあるが、仕事量の増加を考慮すると、全体的には良い結果が出ていると思われる。一般廃棄物に関しては仕方ないところもあるが、もう少し分別を考え削減していく必要がある。積載車を活用し、効率よく引取納車ができてガソリンの使用量を削減できたことは皆の実践の結果が見られるので、他の項目に関してもこのように達成手段を守り実践していくように指導していきたい。